

フランス語学科

人材養成および教育研究上の目的

フランス語学科は、多角的なカリキュラムにおいて、フランス語によるコミュニケーション能力を培うとともに、フランスをはじめとするフランス語圏の国々の文化と社会、その思考方法と価値観を様々な側面から理解することを教育研究の目的とする。すなわち、複眼的思考力を身に付けることにより、国際社会において文化の枠組みを越えて他者との関係を構築し、多様な価値観を顧慮しながら人間の原点に立って行動できる人材、及び異文化間の相互理解に貢献できる広い教養と深い学識をそなえた国際人を養成することを目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

フランス語学科は人材養成・教育研究上の目的を達成するために、広く異文化に対する興味・関心を有し、異文化理解と、異文化世界とのコミュニケーションを目指す人の入学を求めています。とりわけフランス語圏各国の文化、社会、歴史に対して、自国のそれらに対すると同様の敬意をもって研究を志し、教養を広げ学識を深めることに強い意欲を持つ人の入学を求めます。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

異文化理解と、異文化世界に対するコミュニケーション能力を身につけるために、フランス語学科のカリキュラムは、1年次、2年次においては、フランス語圏ネイティブと日本人教員グループとの連携によって、学生のフランス語の習得に力をそそぎ、基礎力を養成することを目的にしています。2年次のカリキュラムには、2年次以上の希望者が参加できるフランス語圏ベルギーおよびフランスでの語学研修が組み込まれています。3年次、4年次は、各自の興味にしたがって、少人数のゼミに全員所属し、専門領域の研究と卒業論文もしくはゼミ論の制作を行います。また、交換留学生として毎年およそ1年間、リヨン第二大学、パリ第七大学、ルーヴァン・カトリック大学へ、選抜によって学生を派遣する交換留学制度があります。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

フランス語学科ではその判定においては、フランス語の読解および聴解能力、日本語およびフランス語による表現能力、ならびにフランス語圏文化の知識の習得を特に重視し、これらの能力・知識の習得をもって、学位を授与します。

